

# スウェーデンの昔話の日本への紹介について

— 初期の紹介者たち

現在の日本では、邦訳された各国の昔話が、子ども向け読み物や語りのテキスト、大人の楽しみや研究の資料として容易に手に入るようになってきた。

しかし、外国の昔話はテキストに関する情報が不足したまま読み手や語り手に手渡されているものも少なくないのが現状である。本研究では、既邦訳のスウェーデンの昔話に焦点をあて、どのような資料が選ばれ、どのような翻訳を経て、日本へ紹介されてきたのかを検討する。

スウェーデンの昔話に焦点をあてた理由は、グリム童話と源を同じくするゲルマンの昔話として、また戦後にあつては豊かな福祉国家として、日本人の関心が向けられてきた国であることによる。同時に、関心が高い一方で、言語的な制約があり情報が十分に日本に伝わっていない状況を改善しようという意図もある。今回は特に初期の紹介者3名（戦前1名、戦後2名）に限定して研究を行った。

## 一 スウェーデンの昔話の記録

ヒルテン＝カヴァリウス (Gunnar Olof Hyllén-Cavallius、一八一八―八九) とステイーヴンス (George Stephens、一八一三―九五) が、グリム兄弟の活動に倣い、*Svenska folkvisor och äventyr* (一八四四―四九) を発表。詩的かつ古典的な言い回しを駆使した文章は読者を獲得することが出来ず、予定されていた続刊は発行されなかった。しかし、昔話を提供した語り手たちの手稿やヒルテン＝カヴァリウスの手稿が残されており、二〇世紀中頃にリリエブラード (Sven Samuel Liljeblad、一八九九―二〇〇〇)、サルグレン (Jöran Salgren、一八八四―一九七二) らによって復元され、当時の語りの様子を知らることができるようになった。例えば語り手の一人である、ヒルテン＝カヴァリウスの父、カール・フレデリック牧師は、昔話の芸術的側面を強調する息子に対して、昔話の教訓的特質を軽んじないように手紙を書き送っているが、彼の語る昔話に

松村 裕子

は性的な笑いを含む本格昔話や、イエスとペテロが登場する笑話が含まれていることがわかっている。当時の語り手たちにとって、笑いと教訓は共存するものであったことがわかる。

一八七〇年代から八〇年代に、スウェーデン国内に方言運動が起り、その活動のなかでユールクロウ (Nils Gabriel Djurklou、一八二九—一九〇四) がネルケ方言を活かした昔話集を刊行した。ついでボンデンソン (August Bondeson、一八五四—一九五) は、ノルウェーのアスピヨルンセンの助言を入れて、標準スウェーデン語をもちいた昔話集を刊行した。Historiegbur på Dal (一八八六) は、語りの記録でありながら読み物として面白く、語り手がいつ誰からその昔話を聞いたか、また語り手の語りに対する態度まで記録している。

二〇世紀以降、グスタフ・アドルフ王立研究所 Kungl. Gustav Adolfs Academiën が中心になって口承文芸の研究がすすめられている。また、ヒルテン＝カヴァリウスやユールクロウらの昔話は、ソープ Benjamin Thorpe、シュトレーベ Clara Siroebe らの翻訳を通して各国で知られるようになった。

ただし、スウェーデン独自の話型は極めて稀であると考えられている。北欧諸国は言語的に極めて近い関係にあること、国境線がしばしば変更されたこと、国境地帯に暮らす人々が仕事などの理由で自由に移動することも多かったためだと考えられる。スウェーデンは「スウェーデンの昔話は、スウェーデン語で保持された、といつかことに拠っている」(Swahn 9) と説明している。

## 二 スウェーデンの昔話の邦訳

戦後しばらく、スウェーデンの昔話は「北欧」という枠組で紹介されることが多かった。訳者・再話者が国名を誤記している例も見られることから、北欧各国に対する認識が十分にでなかったことがわかる。一九八〇年以降は徐々に、スウェーデンの昔話のみが収められた書籍、スウェーデン語からの訳本が増えていく。(スウェーデンの昔話の邦訳については、表①参照)

表① スウェーデンの昔話の邦訳状況

発行年	訳者、編者	書籍名	収録話されたスウェーデンの昔話
1903	巖谷小波	世界お伽噺 第46編	刀三本
1905	巖谷小波	世界お伽噺 第71編	少年国
1913	巖谷小波	世界お伽文庫 第19編	忠義猫
1949	山室静	人魚姫 北欧童話集	海の女王、ピツコの犬、聖嬰兒節に死んだ男の話、ユールタイトの幽霊、悪魔とキツタ・グラウ、大男の跳び爺さん、ガラス山のお姫さま
1950.1	石田英一郎	うたう木の葉 デンマーク童話集	人狼、ピンケルの冒険、三つの望み、うたう木の葉
1950.9	小出正吾	お話十二か月	三つのねがい
1951	山室静	金の女王の山	金の女王の山、びっこの犬
1952	山室静	うみの女王	うみのじょおう、大おとこのはなし

1954	石田英一郎	世界少年少女文学全集 22 北欧童話集	ペンケルの冒険
1954	石田英一郎	世界民話全集 2	人狼、三つの望み、うたう木の葉
1955	山室静	北欧むかしばなし 一年生	三つのねがい、おんなのことへび
1955	山室静	北欧むかしばなし 二年生	ばかな山男、びっこの犬
1955	山室静	北欧むかしばなし 三年生	おんどりとひきうすとすずめばち、海の女王
1955	山室静	北欧むかしばなし 四年生	トーレ・エッペのゆうれい、人おおかみ
1956	山室静	北欧むかしばなし 五年生	大男のとびじいさん、三びきの犬
1956	山室静	北欧むかしばなし 六年生	ガラス山のお姫さま
1957	尾崎義	世界の文学小学 4年生	巨人と少年
1958	佐藤俊彦	世界の民話 2 北欧の民話	トーレ・エッペのゆうれい、少女とへび、ストムペ・ビルト、他
1958	(石田英一郎 監修)	世界のむかし話 7 北欧	二つのはこ
1960	山室静	北欧むかしばなし集	ガラス山のお姫さま、人おおかみ、大男のとびじいさん、水の精ネックと少年、金の女王の山、やすみの時間
1960	山室静	少年少女世界文学全集 36 北欧編	海の女王
1960	矢崎源九郎	世界の民話と伝説 1	巨人と少年のちえくらべ、ピョンピョンとびの巨人じいさん
1960	尾崎義	世界童話文学全集 9	ガラスの山のおひめさま
1963	訳者不明	明るい生活：農家の雑誌 (115号)	巨人のフィンとルンドの寺院、クリスマスのゆうれい、かわいそうなあくま
1963	川端康成、 野上彰	ラング世界童話全集 13	グリブという鳥
1964	矢崎源九郎 ／山内清子	子どもに聞かせる世界の民話	あわれな悪魔
1964	植田敏郎	少年少女世界の民話伝説 1 ドイツ・北欧むかし話集	リーゼンプフブじいさん、ガラスの山の女王
1969	山室静	世界の名作図書館 1	びっこのいぬ
1970	山室静	民俗民芸双書 53 北欧の 民話	ガラス山の姫、人狼、トーレ・エッペの幽霊、スコールンダ山の巨人、水の精（ネック）と少年、少女と蛇、なぜ犬はネコを憎み、ネコはネズミを憎むのか
1971	山室静	世界のむかし話集 上	跳ぶ巨人、水の精（ネック）と少年、スコールンダ山の巨人、トーレ・エッペの幽霊、びっこの犬、少女と蛇、テルイエの町の死刑台、ガラス山のお姫さま
1971	下村隆一	子どもの文学	王子とメッセリア
1971	瀬田貞二	世界のむかし話	くぎスープ
1976	櫛田照男	世界の民話 3 北欧編	白いくま、黄金女王山、山の巨人をからかった娘、他
1977	山室静	新編世界むかし話集 3 北 欧・バルト	とぶ巨人、スコールンダ、トーレ・エペの幽霊、ビッコの犬、少女とへび、クネス
1978	高橋静男	世界の民話 4 北欧編	心の底から出た言葉、心臓のない巨人
1978	山室静	北欧のむかし話（偕成社文庫）	海の女王、おろかな巨人、金の女王の山、よい商売、小さいローサとのおぼのレダ、巨人のフィンとルンドの本寺、歌をうたう三枚の葉

1980	菅原邦城	メッセリア スウェーデン 民話集〇〇	牧師さんのごちそう、狐とかささぎ、熊はどのようにして人間を知ったか、美しい羊飼い娘、王子さまとメッセリア、三人のでかばあさん、金の柱の上に立っているお城、ねずみの花嫁、小さな金の靴、山の王のうさぎの番をした少年、不思議なかわかます、賢い百姓娘、心だめし、出産祝い、泥棒兄弟、巨人と食べくらべをした少年、いいもうけ、おとつあんとおっかさんが仕事をとりかえたら、独身の坊さんたちを自分の娘から追い払った商人
1981	小澤俊夫	世界メルヒェン図書館 2 巨人 シュトンペ=ピルト	巨人シュトンペ=ピルト、ラッセ、用事だよ！、まほうのつば
1981	東京こども 図書館	おはなしのろうそく 11	キツネとおとこのこ
1981	西本鶏介・ マニング	世界の民話館 9 怪物の本	リンドウォルム王子
1983	谷口幸男	魔法のつば 北欧の昔ばなし	魔法のつば、スプローゲの牧師の奥さん、ノルランドのイエッパ、あら、うそよ、猟師ブリーテ、召し使いらッセ
1983	木村由利子	世界のむかし話③スウェー デン〇	わかものと水の精、くぎのスープ、キツネと男の子、ピンケル、おばあさんとさかな、しもべのラース
1987-88	飯豊道男	メルヒェン 12 ヶ月	人狼、先にうまれれば、先に結婚、ガラス山の王女、足の不自由な犬、白銀とリルヴァッカー、ラッセ、わたしの召使い
1996	米原まり子	スウェーデンの民話 〇	怠け者マッセ、テリエの愚か者たち、盗人の三つの名人芸、緑の鬚鬚の王子、三本の剣、他
2001	大橋實	スウェーデンの民話 1 〇〇	灰かぶり、グリセラ、他
2001	ときありえ	世界のむかし話 1 年生	三つのねがい
2001	福井信子、 湯沢朱実	子どもに語る北欧の昔話	屋根がチーズでできた家、トロールとうでくらべをした少年
2001	いしいとし こ	ちいさなちいさなおばあ ちゃん 〇●	ちいさなちいさなおばあちゃん
2002	石黒みな子	母の友 (594 号)	チーズの屋根の家
2004	東浦義雄	トロールの森の物語	ああ言えばこう言う、ブラウニーと司祭、水馬のいたずら、ほか
2004	大橋實	スウェーデンの民話 2 〇 ◎	娘のまごころをためした王様、ルンケントゥス、青い鳥、テネリファから来た漁師の息子
2006	酒井公子	ほっぺ (14 号)	三つの願いスウェーデン民話より
2008	西村醇子・ ラング	ももいろの童話集	グリップという鳥
2008	うらたあつ こ	スウェーデンの森の昔話 〇〇	バターばうや、くぎスープ、ルーディ、他
2008	菱木晃子	くぎのスープ (絵本) 〇 ●	くぎのスープ
2010-13	藪下統一	スウェーデン民話名作集 I- IV◎	七つの星、卑怯な兄と賢い弟、狼人間、自信過剰、召使ラッセ、夢見る人たち、巨人とリス、王子とフロリンナ、他
2010-16	松村		カヴァリウスとスティーヴンズ『スウェーデンの昔話』
2014	小澤俊夫	子どもと昔話 (61 号)	黄金女王山
2015	小澤俊夫	子どもと昔話 (65 号)	トロールを追い払った動物たち

◎スウェーデン語から訳されたもの／〇スウェーデンの昔話のみが訳されたもの／●絵本

### 三 初期の紹介者たち

#### (一) 巖谷小波 (一八七〇—一九三三)

明治期にスウェーデンの昔話を日本へ紹介したのが巖谷小波である。小波は日本初の創作児童文学『こがね丸』の作者として知られる作家である。日本の昔話再話集が成功を収め、一九〇〇—二二年にベルリン東洋語学校で講師を勤めるために渡独するのをきっかけに、海外の昔話集の発行を企画した。またその背景には、自身の昔話集が翻訳され海外で読まれていたことも関係しているのではないかと考えられる。

『定本小波世界お伽噺』第五巻によると、「瑞典」六話、「ラプランド」一話を紹介したことになっているが、「浮かれ胡弓」「世わ情」はアスピヨルンセンとモーのノルウェー昔話、「鬼だまし」「馬の首」はポエスチオン『ラップランドの物語』から採られた話であり、「刀三本」「少年国」のみがスウェーデンの昔話である。この二話は、ヒルテン＝カヴァリウスとステイーヴンズの *Svenska folksagor och äfventyr* のオーベルライトナーによるドイツ語訳 (Oberleitner, Karl, *Schwedische Volkssagen und Märchen*. 一八四八) からの重訳である。ついで、同書から「忠義猫」を訳出している。

小波は、話の大筋は変えないまでも、日本的な人物像への変更、会話など講談調の文体の活用、滑稽な部分の省略などを行っている。例えば、「忠義猫」では、「Ejst var han mycket fatig,

ty en ko och en katt utgjorde hela hans rikdom.” (小作人は貧しく、財産といえは牛一匹と猫一匹のほかには何も持っていないかった。) を「牛が一匹と、猫が一匹―財産と云つてわ此外に、何一つありませんでした。世わ段々世智辛くなりますのに、夫婦わいくら稼ごうとしましても、思う様に金が取れませんから、始終ひだるい想いばかりして居ました。」と貧しさを強調する表現を加えている。あるいは、「Torparen och hans hustru levde i beständigt kiv med varandra, och man kunde vara viss därpå, att man om gubben ville ett, ville kärningen alltid ett annat.” (小作人と妻は、いつも喧嘩ばかりしていた。小作人がこうしたいと思えば、妻はいつもそれに反対するといった調子だった。) を、小波は削っている。小波の訳は、翻案であったことがわかる。

また、原典に関しては「此原書わ千八百四十八年の出版で、随分珍らしい本なのであります」(巖谷小波、9) と、ドイツ語版のことのみ触れている。スウェーデンの原典に対する情報はあまり得られていなかったのではないかとと思われる。

#### (二) 山室静 (一九〇六—二〇〇〇)

翻訳家、児童文学研究家。戦後いち早く北欧の昔話を紹介し、また数多くのスウェーデンの昔話を紹介したのが山室静である(表②山室静スウェーデンの昔話翻訳一覧 参照)。一九四九年から、一九七八年の長きにわたりスウェーデンの昔話の紹介を行っている。『北欧の神々と妖精たち』(一九七七)、『世界のシンデレ

ラ物語』(一九七九)発行に向けて、山室の興味が昔話研究へ向かっていったことも関連しているだろう。

最初、山室はシュートレーベの選集を用いて再話していたと思われるが、後年は複数の昔話集から翻訳を試みている。また、昔話の題名(人おおかみ、歌をうたう三枚の葉)について石田英一郎の訳からも影響を受けていると考えられる。

(三) 石田英一郎

(一九〇三—一九六八)

文化人類学者。「うたう木の葉(原題…地下の国のハット王子)」、「人狼」、「ピンクケルの冒険」、「三つの望み(原題…ソ」

表② 山室静スウェーデンの昔話翻訳一覧

スウェーデンの昔話：題名	：記録者	英独翻訳版の訳者	山室静スウェーデンの昔話翻訳書発行年												
			1949	1951	1952	1955	1956	1960	1969	1970	1971	1977	1978		
海の女王	HS/S	Thorpe / Stroebe / Tetzner	○		○	○		○							○
びっこの犬	HS	Thorpe / Stroebe / Tetzner	○	○		○				○		○	○		
とぶ巨人	B	Stroebe / Tetzner	○				○	○			○	○	○		
ガラス山のお姫さま	HS	Thorpe / Stroebe / Tetzner	○				○	○			○	○			
聖嬰児節に死んだ男の話	S	Stroebe	○												
ユールタイドの幽霊	S	Stroebe	○												
悪魔とキッタ・グラウ	B	Stroebe	○												
金の女王の山	Gustav Erikson/S	Stroebe / Schier		○					○						○
スコールンダ山の巨人	H	Stroebe			○						○	○	○		
少女とへび	Gustav Erikson/S	Stroebe / Schier				○					○	○	○		
三つのねがい	D	Brækstad				○									
ばかな山男	H	Myers / Stroebe				○									○
おんどりとひきうすとすずめばち	Stephens/s	Stroebe				○									
人おおかみ	HS	Thorpe / Stroebe / Tetzner				○		○		○					
トーレ・エッペの幽霊	HS/S	Stroebe				○				○	○	○			
三びきの犬	HS	Thorpe/Stroebe						○							
ネックと少年	HS/Olenius	Wälden							○	○					
やすみの時間									○						
なぜ犬はネコを憎み、ネコはネズミを憎むのか	B/S										○				
テルイエの町の死刑台													○		
クネス	Technigar og Toner ur skanska allmogenslif,1889	Stroebe												○	
よい商売															○
小さいローサとのつばのレダ	HS	Thorpe													○
巨人のフィンとランドの本寺	S														○
歌をうたう三枚の葉	HS	Thorpe													○

スウェーデン語版著者：HS: Hyltén-Cavallius & Stephens / D: Djurklou / B: Bondeson / H: Hofberg / S: von Sydow-lund

セージ」を翻訳した。

石田の翻訳した昔話集は、以下の五冊である。『世界昔ばなし文庫 火の鳥・ロシアの昔話』（彰考書院、一九四八）、『うたう木の葉 デンマーク童話集』（福村書店、一九五〇）、『世界民話全集一 北欧編』（河出書房、一九五四）、『世界民話全集五 東欧編』（河出書房、一九五四） \* ロシアが石田編訳、『世界民話全集一〇 太平洋』（河出書房、一九五五） \* インドネシア、アフリカが石田編訳。

石田は、一九四八年二月『河童駒引考』、同年十一月『二寸法師』を発表しており、比較文化の資料となることも期待していたのではないかと考えられる。例えば、『うたう木の葉』のあとがきで、人狼の俗信と狐憑きの関連性や、トロールにみるキリスト教以前の信仰の名残、デンマークと日本の「食わず女房」の比較などに言及している。

石田訳のうち、「うたう木の葉」「人狼」「ペンケルの冒険」はヒルテン⇨カヴァリウスとステイヴンズの昔話集が原典、「三つの望み」はユールクロウの昔話集が原典である。

「人狼」「うたう木の葉」は、ソープの翻訳から重訳ではないかと考えられる。「人狼」で、“illa om sig.”（⇨気分や機嫌が悪い状態）を、石田とソープは「ひどくうえて、苦しうに」と訳しているが、シュトレレーベは“böse”と訳し、マーティン版もシュトレレーベ訳を踏襲し“angry”としている。また原典では「継母とその意地悪な娘たち」と書かれているが、ソープと石田は「意地悪な継母と娘たち」と訳している（表③「人狼」対訳表 参照）。また石田訳で題名として書かれている「うたう木の葉」は、ヒルテン⇨カ

資料③ 「人狼」対訳表

題名	Varulven	The Werwolf	人狼（ひとおおかみ）	人おおかみ
著者、 訳者	Hyltén-Cavallius & Stephens	Thorpe	石田英一郎	山室静
発行年	1844	1910	1950	1955
	Det var en gång en konung, som rådde över ett stort konungarike.	There was once a king, who ruled over a large kingdom.	むかし、ある大きな國に一人の王様がありました。	むかし、ある大きな國に、一人の王さまがいらっしやいました。
	Han hade en fager drottning och ägde med henne blott ett enda barn, en dotter.	He was married to a beautiful queen, by whom he had only one child, a daughter.	王様には、美しいお妃とのあいだに、たったひとりの女の子さんがありました。	王さまと、美しいお妃とのあいだに、たった一人の女の子さんがありました。
	Men jag var också med på gillet, och när jag red över skogen, mötte mig en ylva med två sina ungar, och de glupade* och läto mycket illa om sig. * 口を大きく開け	…and as I rode through the forest I was met by a wolf with two young ones; they were ravenous, and seemed to suffer much.	わたくしが森をぬけて馬をはしらせていきますと、二匹の子をつれた狼に出あいました。狼は、ひどくうえて、いかにも苦しうにみえました。	わたしが森をぬけて、馬を走らせて行きますと、二匹の子をつれたおおかみに出あいました。おおかみは、ひどくうえきっていて、いかにも苦しうでした。
	Jag har sedan fått spörja, att det inte var någon annan än styvmödem och hennes bägge elaka döttrar.	I have since learned that they were no other than the wicked stepmother and her two daughters.	わたくしはこの狼こそたしかに、あの意地の悪いママとその娘たちにちがいないと思つたのです。	この三びきのおおかみこそ、きつと、あのいじわるいママ母と、その娘たちにちがいないと思います。

ヴァリウスの昔話集にはなく、ソーブの訳で副題としてつけられたものである。

「三つの望み」は、ユールクロウの昔話「Körfven」が原典であるが、ブレクスタの英訳を経ていると考えられる(表④)。「三つの望み」対訳表 参照)。石田は、ユールクロウにある「膝をおってお辞儀をする」(「女性の丁寧なあいさつの仕方」を「何度もていねいにおじぎをしまいました」へ、「チーズやハムなどの) 副菜が好き」を「あたたかい食べものが好き」と変えて訳しているが、これはブレクスタでも同様の表現がなされているからである。しかし、ブレクスタ訳の題名は「The Sausage」であり、「三つの望み」という題名は石田の発案ではないかと思われる。おそらく、日本人になじみの少ないカタカナ語を避ける意図があったのではないかと思われる。「地下の国のハット王子」ではなく、「うたう木の葉」という副題を日本語の題に選択したのも同様の配慮であろう。また、ユールクロウやブレクスタにもない「ふいにお日さまにてらされたように明るい顔になりました」といった表現を石田は加えており、日本の読者へむけた工夫が随所にみられる。

石田の紹介したスウェーデンの昔話は四話だけであったが、後続に影響を与えた。小出正吾「三つのねがい」、植田敏郎「三つのぞみ」、ときありえ「三つのねがい」などは、題名も石田訳の影響を受けていると考えられる。また、山室も「人狼」「うたう木の葉」について石田訳を参照していると思われる(表③)

表④ 「三つの望み」対訳表

題名	Körfven	The Sausage	三つの望み
編者、訳者	Djurklou	Brekstad	石田
	Dä va en gång e käring, sóm geck å móla hemsamten i stugá en qväll mä ho vänta' på gubben sin, sóm va ute på arbete bört i skogen;	There was once an old woman, who was all alone one evening in her cottage, occupied with her household affairs. While she was waiting for her husband, who was away at work over in the forest, and while she was bustling about,	むかし、一人のおばあさんがありました。ある日の夕方、森へ仕事に行っているおじいさんのかえりを待ちながら、おばあさんが台所でせわしくたち働いておりますと、
	å mä ho geck där å roka' kóm dä e så fin å grann fru in i stugá, så käringa måtte niga sej rankalös i knäsvega , för e så grann menniská ha ho allri sitt förr.	a fine, grand lady came in, and so the woman began to curtsy and curtsy, for she had never seen such a grand person before.	ふいに、美しい、りっぱな女の人はいってきました。おばあさんは思わず、何度もていねいにおじぎをしまいました。だってまあ、いままで見たこともない、身分の高そうな人だったからです。
	Men når dí nu va så rika, så va dá allt söcknitt te inte ha någä anna än litä skäll mjólk å nära håla bröbetar te bju gubben, når han kóm hem, han sóm va så trötter å tyckte så myckä um söggel.	But since they were now so rich it was really a shame that there should be nothing but some blue, sour milk and some hard crusts of bread in the cupboard for her husband when he came home tired and weary, he who was fond of hot food.	とにかく今はもう昔のびんぼう人ではありません、お金もちになったのです。つかれきってかえってくる主人のために、食器戸棚のなかにすしばかりの青いすっぱいミルクと、かたいパンくずしかないとは、あんまりおはずかしい。おじいさんは、あんなにあたたかい食べものが好きなのに。

Gubben fresta' fälle å få dän kórfven han óg, men han orka'nte mer han än káringa, å fast han rökcte å drog, så han va nämma ve å röcka hufveknóppen åf káringa, så va han inte krópp te rugga honom dá minsta gránn.	The husband tried, of course, to help his wife to get rid of the sausage; but for all he pulled and tugged away at it he did not succeed, and he was nearly pulling his wife's head off her body.	おじいさんは、青くなって、どうにかしてソーセージをとってやろうとしましたが、どんなに押そうが引っぱりそうが、ソーセージはびくともしません。あんまりやると、おばあさんの首のほうが、からだからはなれそうになってしまいます。
>> Önska du <<- sa káringa å gránga.	"You wish for something," said the woman in the midst of her crying.	「さあ、あんた、なにか望みを言いなさいよう。」と、おばあさんが涙声で言いました。
>> Nej önska du! <<- sa gubben - han måtte gránga han óg, når han såg på gummå si mä kórfven midt i syna.	"No you wish", said the husband, who also began crying when he saw the state his wife was in, and saw the terrible sausage hanging down her face.	「いいや、おまえ言つたらいい。」と、おじいさんが言いました。おじいさんも、おばあさんの顔からぶらさがっている、おそろしいソーセージを見、泣き叫ぶうすを見ているうちに、じぶんもおいおい泣きだしてしまいました。
Men hur dá va, så önska han ändå.	So he thought he would make the best use he could of the last wish, and said:	ところがおじいさんは、ふいにお日さまにてらされたように明るい顔になりました。
>>Ja vånnar mor vure åf mä den uschla kórfven <<- sa han, å så flög kórfven te kos mä dásamma; å di vart så fjájna, så di tog te å kyttå öpp å ner; å rundter kring i stugå, för en kan fáille veta dá, att um en kórf å allri så go i munn, så ska en ha'n på nåså, fáille vill en dá åvara'n.	"I wish my wife was rid of that sausage." And the next moment it was gone! They both became so glad that they jumped up and danced round the room in great glee – for you must know that although a sausage may be ever so nice when you have it in your mouth, it is quite a different thing to having one sticking to your nose all your life.	そしてさいごの望みを、「どうか女房の顔からソーセージがとれますように……。」と、いのつてみました。 そのしゅんかんに、ソーセージはかげも形もなくりました。二人は思わずほとして、うれしさのあまり、部屋じゅうをとんだりおどりまわったりいたしました。だって、おわかりでしょう？ソーセージは口に入れればこそおいしいものですが、これが一生鼻のさきにぶらさがるとなると、こまったものですからね。

「人狼」対訳表 参照)。また山室は、「北欧民話について」(文学二六・八)で特に人狼の問題に触れているが、その内容は先に石田が指摘していた人間の動物への変身に対する信仰の国際比較を踏まえている。

#### 四 おわりに

一九八〇年頃まではスウェーデンの昔話の紹介は重訳が中心であった。戦前の巖谷小波はドイツ語版を原典に用いながら、大胆な翻案を試みた。戦後の山室、石田はドイツ語訳、英語訳を経ながらスウェーデンの昔話を翻訳紹介している。

小波はいち早く日本にスウェーデンの昔話を紹介した功績があり、山室は子ども向け大人向け問わず長年にわたってスウェーデンの昔話を紹介してきた功績がある。石田は、昔話の国際比較を念頭においてスウェーデンの昔話を翻訳した。日本人に馴染みやすい題名を選んで定着させた点や、戦後間もない頃より複数の昔話集を参照しながら昔話を紹介している点も評価されるべきである。

巖谷、石田、山室によって邦訳された資

料の多くは、ヒルテン＝カヴァリウスとステイーヴンズによって蒐集記録されたものであった。また、ユールクロウ、ボンデソンの昔話集からも紹介されている。重訳邦訳を経ることで、スウェーデン語の原典を個性付けしていた言い回しや方言は失われているが、スウェーデンの昔話研究史上重要な昔話の記録が、部分的にはあるが、戦前戦後のはやい時期にすでに日本へ紹介されていたことが明らかになった。

#### 引用文献

- 巖谷小波『袖珍世界お伽噺 第3集』一九二二年、博文館。国  
立国会図書館デジタルライブラリー。二〇一六年一月三十一日 <<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/933066>>  
Hellsing, Brigita, and Jan-Ojvind Swahn. *Svenska folksagor*.  
Bonnier Fakta, 2008.

#### 参考文献

- 石田英一郎『うたう木の葉 デンマーク童話集』一九五〇年、福  
村書店  
石田英一郎『世界民話全集二』一九五四年、河出書房  
巖谷小波『定本小波世界お伽噺』一九四三―四四年、生活社  
巖谷小波『袖珍世界お伽噺 第3集』一九二二年、博文館。国  
立国会図書館デジタルライブラリー。二〇一六年一月三十一日 <<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/933066>>

巖谷小波『袖珍世界お伽噺 第8集』一九二二年、博文館。  
国立国会図書館デジタルライブラリー <<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/933069>>

大橋實『スウェーデンの民話(一)』二〇〇一年、スウェーデン  
交流センター

大橋實『スウェーデンの民話(二)』二〇〇四年、スウェーデン  
交流センター

小澤俊夫『世界の民話三 北欧』一九七六年、ぎょうせい

小澤俊夫『巨人シウトンペ＝ピルト』一九八一年、ぎょうせい

クヴィーデラン、セームスドルフ『5人の語り手による北欧の  
昔話』二〇〇二年、古今社

クレイギー『トロールの森の物語』二〇〇四年、東洋書林

佐藤俊彦『北欧の民話』一九五八年、未來社

シグセン、ブレッチャー『スウェーデンの民話』一九九六年、  
青土社

菅原邦城『メッセリア』一九八〇年、東洋文化社

瀬田貞二『世界の昔ばなし』一九七一年、学習研究社

瀬田貞二『児童文学論』二〇〇九年、福音館書店

谷口幸男『魔法のつば』一九八四年、小峰書店

ティードホルム『スウェーデンの森の昔話』二〇〇八年、ラト  
ルズ

テツツナー『メルヒェン12ヵ月』一九八七―八八年、未來社  
東京子ども図書館『おはなしのろうそく』東京子ども図書館、

一九七三年)

ときありえ『世界のむかし話一年生』二〇〇一年、偕成社

長澤修一「巖谷小波の翻案世界―明治二〇年代をめぐる―」『梅

花女子大学文学部紀要』第三五巻、二〇〇一年

中川正文『世界の名作図書館―世界の神話世界の民話』

一九六九年、講談社

ハビランド『世界のむかし話三スウェーデン』一九八三年、学

校図書

星野慎一『ドイツ・北欧の民話』一九七〇年、さ・え・ら書房

福井信子、湯沢朱実『子どもに語る北欧の昔話』二〇〇一年、

こぐま社

マニング・サンダース『世界の民話館九怪物の本』一九八一年、

TBSブリタニカ

薮下紘一『スウェーデン民話名作集』二〇〇一―二〇〇三年、春風社

薮下紘一「スウェーデン民話研究の為に(資料二二)」『駒澤大

学論集』五六、二〇〇二年

薮下紘一「スウェーデン民話研究の為に(資料二三)」『駒澤大

学外国語部論集』五八、二〇〇三年

薮下紘一「スウェーデン民話研究の為に(資料一四)」『駒澤大

学外国語部研究紀要』三五、二〇〇六年

薮下紘一「スウェーデン民話研究の為に(資料一六)」『駒澤大

学外国語論集』四、二〇〇八年

薮下紘一「スウェーデン民話研究の為に(資料一八)」『駒澤大

学外国語論集』五、二〇〇九年

山室静『人魚姫 北欧童話集』一九四九年、福村書店

山室静『うみの女王』一九五二年、あかね書房

山室静『北欧むかしばなし一年生』一九五五年、宝文館

山室静『北欧むかしばなし二年生』一九五五年、宝文館

山室静『北欧むかしばなし三年生』一九五五年、宝文館

山室静『北欧むかしばなし四年生』一九五五年、宝文館

山室静『北欧むかしばなし五年生』一九五六年、宝文館

山室静『北欧むかしばなし六年生』一九五六年、宝文館

山室静『北欧民話について』『文学』第二六巻第八号、一九五八

年、岩波書店

山室静『北欧むかしばなし集』一九六〇年、宝文館

山室静『世界の名作図書館二』一九六九年、講談社

山室静『北欧の民話』一九七〇年、岩崎美術社

山室静『世界のむかし話集上』一九七一年、社会思想社

山室静『北欧のむかし話』一九七八年、偕成社

山室静『世界のシンデレラ物語』一九七九年、新潮社

山室静『新編世界むかし話集三 北欧・バルト編』二〇〇四年、

文元社

ラング(西村醇子監修)『アンドルー・ラング世界童話集』一

二巻、二〇〇八年、東京創元社

Bondeson, August. *August Bondesons Samlade Skrifver*. 7 vols.

Stockholm: Albert Bonniers Förlag, 1939-40.

- Dasent, Sir George Webb. *Popular Tales of the Norse*. 1904. London: Abela publishing, 2010.
- Djurklou, G. *Sagor och äfventyr*. 1883. Stockholm: C.E.Fritze - s K.Hofbokhandel.
- Djurklou, Baron G. *Fairy Tales from the Swedish*. 1901. London: William Heinemann. The Internet Archive. 2016.10.31 <<https://archive.org/details/fairytalesfromsw00djurklou>>.
- Haviland, Virginia. *Favorite Fairy Tales told in Sweden*. 1973. New York: A Beech Tree Paperback Book, 1994.
- Hellsing, Birgitta, and Jan-Ojvind Swahn. *Svenska folksagor*. Bonnier Fakta, 2008
- Hyltén-Cavallius, Gunnar Olof and Georg Stephens. *Svenska folk-sagor och äfventyr:: Efter Muntlig Öfverlemning Samlade och Utgifna*. Stockholm: A.Bohllins förlag, 1844. USA.
- Hyltén-Cavallius, Gunnar Olof and Georg Stephens. *Svenska sagor*. Svols. Uppsala: Kungl.Gustav Adolfs Akademien, 1944-45.
- Oberleitner, Karl. *Schwedische Volkssagen und Märchen*. Norderstedt: Vero Verlag, 2014.
- Scher, Kurt. *Schwedische Volksmärchen*. Die Märchen der Weltliteratur. München: Diederichs, 1994.
- Stroebe, Clara. *Nordische Volksmärchen*. 1922. Norderstedt: Vero Verlag.
- Stroebe, Clara. *The Swedish Fairy Book*. New York: Frederick A.Stokes Company, 1921. FB&C Ltd.2015.
- Strömbäck, Dag. *Leading Folklorists of the North*. Oslo, Universitetsforlaget, 1970.
- Thorpe, Benjamin. *Yule-tide Stories: Scandinavian and North German Popular Tales and Traditions from the Swedish, Danish, and German*. London: George Bell & Sons, 1910. The Internet Archive. 2016.10.31 <<https://archive.org/details/yuletidesstories00thor>>.
- Tidholm, Anna-Clara. *Sagor från skogen*. Stockholm: Alfabeta, 2001.

#### 追記

本稿は日本口承文芸学会第四〇回大会での口頭発表をもとに、加筆修正をおこなったものです。貴重かつ意見をくださった「まじつ」の「まじつ」心より感謝申し上げます。

(まじつ・ゆいっ／聖徳大学)